



富士山

山梨 Side 梨

山麓から五合目《中腹域》の富士山を歩いて楽しもう！



日本富士山協会



西白塚～高鉢コース

ミズナラやブナの巨木に野鳥たちもお出迎え南麓の明るい森の魅力を手軽に散策！

標高1,293mの寄生火山「西白塚」を中心に、富士山南麓の豊かな森を堪能できる遊歩道やハイキングコースが数多く張り巡らされているので、体力や気分に合わせてコースアレンジも自在なエリアです。



▲西白塚駐車場スタート地点



▲カエデ広場

起点の富士山スカイライン「西白塚駐車場」から案内板をチェックしてスタートです。天然林の大木が織り混ざる雑木林のなか良く整備された遊歩道を、まずは「カエデ広場」方面へ。野鳥のさえずりを耳に「西白塚」を目指します。見えてきた小山に登るとナラの御神木と祠がある塚の山頂、寄生火山の火口縁を巡れます。目の前に富士山を仰ぎながら塚を下り「ブナ広場」へ、ブナやカツラの巨木が見事。ここから「ナラ広場」の分岐まで小道が多く交差しているので地図を慎重に確認しながら「二合目林道分岐」を目指します。林道を通ぎ、北上するにつれて樹々の数が減り、やがて倒れた樹々の向こう富士山を望める不思議な風景が広がります。倒木帯周辺は富士山の希少な動植物に出合えるチャンスも大。まもなく、標高1,600mに位置する「高鉢駐車場」に到着します。



▲ブナ広場



▲風倒木帯

西白塚～高鉢コース 所要時間 約2時間



ACCESS ●新東名高速新富士IC「西白塚駐車場」まで車約30分
●JR東海道線富士宮駅から「グリーンキャンプ場」までバス約35分



宝永火口縁周遊コース

手軽にアクセスできて、出会える風景は豪快。1707年「宝永の大噴火」で誕生した宝永山を目の前に、巨大火口縁を巡る

雲海を越えて、富士山で最大の側火山「宝永山」と、その巨大な噴火口の間近へとアクセスしてみましょう。山頂登山にも劣らぬスケール感で、火山たる富士山を体感できるコースです。

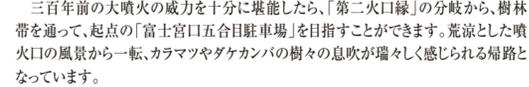
コース起点は標高2,400mの「富士宮口五合目」。五合目駐車場にある登山口から砂礫帯を登り、まずは六合目の山小屋を目指します。小屋脇にある分岐点で登山道と別れ、山肌を横断する平坦な道をしばらく進むと、突然その息をのむ絶景があらわれます。「宝永第一火口縁」です。赤褐色の山肌に大きく口を開けた「宝永第一火口」と、眼前に立ち上がる「宝永山」は、まるで別の星に降り立ったような眺め。さらに振りあげれば、湧きたつ雲の切れ目にのぞく富士山頂という風景の壮大さです。



▲宝永火口縁

▲宝永第一火口から御殿場方面を望む

ぜひ第一火口底まで降りてみましょう。豪快にして美しい火口壁の間近に、地球の底から宇宙を見あげているような感覚を味わうこともできます。「第一火口縁」から「宝永第二火口縁」までは、まさに雲の上の回廊といった眺め。見る角度によって刻々と表情の変わる宝永山の雄姿と、すぐ足元に口を開けた第二火口をじっくり観察しながら、壮大な眺望を満喫できます。三百年前の大噴火の威力を十分に堪能したら、「第二火口縁」の分岐から、樹林帯を通って、起点の「富士宮口五合目駐車場」を目指すことができます。荒涼とした噴火口の風景から一転、カラマツやタケカンパの樹々の息吹が瑞々しく感じられる帰路となっています。



▲宝永第二火口



▲宝永火口から富士山を望む

宝永火口周遊コース 所要時間 1時間5分



ACCESS ●新東名高速新富士IC「富士宮口五合目」まで車約1時間20分
●JR東海道線富士宮駅から「富士宮口五合目」までバス約1時間40分
※7月10日から9月10日まで富士山スカイラインはマイカー規制



水ヶ塚～御殿庭コース

標高1,450m～1,950mの高低差にいろんな魅力が詰まった母なる富士山の「胎内」を一日たっぷり！

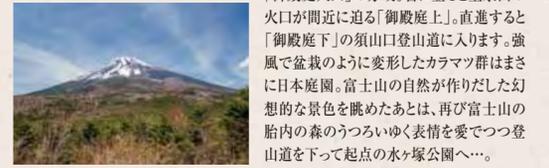
富士山スカイライン沿いの富士山の眺望で人気の「水ヶ塚公園駐車場」をスタートしたら、スカイラインを横断し、須山口登山道との分岐を右へ入りましょう。「須山御胎内」までは平坦な山道で、まさに周辺は富士山に抱かれているような優しい原生の森…。「御胎内上」の分岐から2分ほどの場所の御胎内を見学したら再び山道を北上し「須山下り一合五勾」「幕岩」方面へ。巨大な幕のとき溶岩の岩壁は必見です。「幕岩上」の分岐を「御殿庭」方面へ。



▲幕岩上

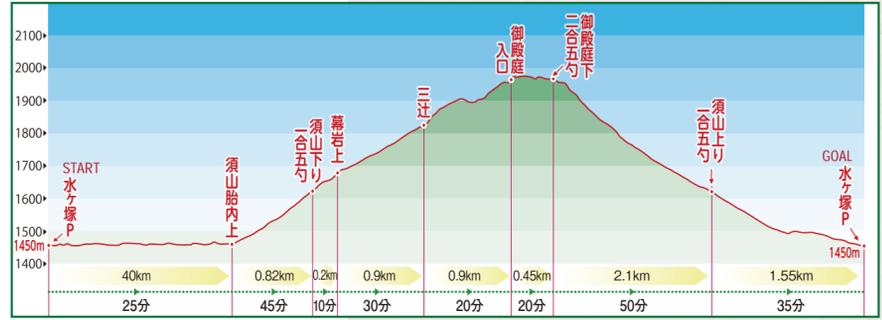
▲御殿庭

「三辻」の分岐に出ると一気に砂礫の山肌の火山らしい眺めが広がり、宝永山も見えてきます。双子山と逆方向に進み、森林限界の植生を楽しみながら、しばらくすると双子山の見晴らしが良い「小天狗塚」。谷間の倒木帯の上の道を進み、濁れ沢を渡ると「御殿庭入口」の分岐。右に登ると宝永山の火口が間近に迫る「御殿庭上」。直進すると「御殿庭下」の須山口登山道に入ります。強風で盆栽のように変形したカラマツ群はまさに日本庭園。富士山の自然が作りだした幻想的な景色を眺めたあとは、再び富士山の胎内の森のうつろいゆく表情を愛でつつ登山道を下って起点の水ヶ塚公園へ…。



▲水ヶ塚からの富士山

水ヶ塚～御殿庭コース 所要時間 約4時間



ACCESS ●東名高速御殿場ICから「水ヶ塚公園駐車場」まで車約55分
●JR御殿場線御殿場駅から「水ヶ塚公園」まで登山バス約55分



ニッ塚(双子山)散策コース

双子の寄生火山の壮大な眺めと緑深い森のコントラストが魅力！

コース起点は富士登山道の中でも通のファンが多い御殿場口登山道の入口「御殿場口五合目」となります。

鳥居をくぐると早速、御殿場口で有名な「大砂走り」につながる一面砂礫の登り道。前方に、富士山頂と宝永山、ニッ塚(双子山)が並ぶ、静岡サイドの富士山を象徴するような風景が見えてきます。



▲御殿場口五合目スタート地点

▲大石茶屋

「大石茶屋」の脇の登山道との分岐を左へ。双子山まで1時間ちよつとの道のりはひたすら単調な砂礫帯ですが、美しい曲線を描き起伏する山肌はまさに富士山の胸元といった眺め。振り返れば眼下に富士山の雄大なすそ野を一望する大パノラマ。別世界のような壮大な景色に目を奪われつつ、気づけば「ニッ塚」の谷間に到着。左手の「下塚」の頂きまで、ぜひひと登りしましょう。晴れていれば「上塚」越しの富士山頂、逆側に御殿場、箱根、駿河湾まで見晴らす大展望を独り占めしたような爽快感が待っています。

足とりも軽く塚を下りルートを進んで10分ほどで分岐の「四辻」。交差している「須山口下山歩道」を左へ下って「幕岩」を目指します。ここから徐々に深まる樹林帯の風景が一変。約15分で「幕岩上」の分岐、さらに少し先に水ヶ塚方面



▲ニッ塚下塚山頂

▲四辻

ニッ塚(双子山)コース 所要時間 約3時間



ACCESS ●東名高速御殿場ICから「御殿場口五合目」まで車約40分
●JR御殿場線御殿場駅から「御殿場口五合目」まで登山バス約40分



小富士・幻の滝散策コース

標高2,000mに広がる貴重な原生林遊歩道から目指すは「小富士山頂」「幻の滝」…

標高2,000m「須走口五合目」周辺での見どころポイントは、側火山「小富士」と、富士山で一年に一度だけ見られる「幻の滝」。どちらも往復1時間程度で大満足の富士山探検ができてしまいます。



▲須走口五合目

▲コメツガの遊歩道

「須走口五合目」の山小屋前を過ぎたら、富士山頂への登山道入口を横目に「小富士遊歩道」へ。目指す小富士まで路はコメツガ、タケカンパなどの原生林に希少な高山植物が織り混ざる森林限界ギリギリの絶好の自然観察路。20分ほどで突如視界が開けたら、そこはもう標高1,979mの小富士山頂。木ひとつない火山砂礫の台地が広がり、眼前にそびえるのは山肌までほつきり見える大迫力の富士山。眼下には山中湖など富士山の東側に広がる大パノラマという別世界のような開放感です。



▲小富士

▲小富士からの富士山

もうひとつの「幻の滝」が出現するのは例年5月初旬～6月初旬の雪解けの時期。ルートの入口は登山道とは反対側の一番上にある「第三駐車場」から。樹林帯の登り道をぬけると、荒涼とした富士山の山肌の道へ。爽快な眺めを楽しみつつ、富士山では聞き慣れない水音がしてくればラッキー。そろそろ幻の滝ポイントです。季節、自然環境、天候など条件がそろった時だけ現れる幻の滝に出合えた時の感動はひとしおはず。

▲幻の滝

小富士コース 所要時間 1時間



ACCESS ●東名高速御殿場ICから「須走口五合目」まで車約60分
●JR御殿場線御殿場駅から「御殿場口五合目」まで登山バス約60分
※7月10日から9月6日までひびきあざみラインはマイカー規制
7月13～16日、8月24～27日、8月31～9月3日は除く

精進口登山道コース

三合目から五合目までたっぷり
富士山の植生の変化など観察しながら
森林浴を楽しむのに最適

大正12年に富士山の自然を楽しめるように整備されたルートです。本来の起点は精進湖近くの「女」の赤池」にありますが、コース途中の「富士スバルライン三合目」からなら、約3時間ほどの手頃なハイキングです。「三合目バス停」から400mほど下った「樹海台駐車場」が利用でき便利です。



▲三合目バス停スタート地点 ▲三合目の開けた広場

バス停のすぐ脇からルートに入ると、往時に苦心して整備した登山道の様子も観察でき、間もなく開けた広場では「天然記念物・富士山原生林」の石塔を発見。このあたりからしばらくは、富士山北麓に特徴的な「樹海の森」の雰囲気も残り、苔に覆われた樹々の根や溶岩の様子が神秘的です。つづいて三合五勾地点の「天然カラマツ林」。天を突くがごとく伸びる林が見事です。自生するシャクナゲの群生も目立つようになり、四合目の山小屋跡でおおよ



▲三合五勾の天然カラマツ林



▲シャクナゲ群生地

2,000m地点。付近では「小御岳水穴群」も見られます。ここから森林境界の植生へと変化していく様子をはっきり観察でき、徐々に視界も開放的に。シラカバが目立ちはじめたら、ゴールの「富士スバルライン五合目」です。ハクサンシャクナゲが開花する初夏やカラマツが黄葉する秋などもおすすめです。「精進口登山道」と「吉田口登山道」の場合、登りはバスを利用。富士スバルライン五合目から、登山道をゆっくり下ってくる、という楽しみ方もできます。



▲富士スバルライン五合目



▲四合目付近小御岳水穴

▲小御岳神社(五合目)

富士山信仰の聖地として古くから祈りの場として多くの崇敬者、修行者が訪れました。毎年7月1日は富士山の開山を祝い、開山祭が早朝に行われます。



ACCESS ◎中央自動車道河口湖ICから「樹海台駐車場」まで車約40分
◎富士急行線富士山駅から「富士スバルライン三合目」までバス約45分
※7月10日から8月31日まで富士スバルラインはマイカー規制

吉田口登山道コース

現在も麓から徒歩で登れる貴重な登山道
富士山信仰の歴史をたどりつつ
ゆっくりハイキング

江戸時代に人々が六根清浄を唱えて登った由緒ある富士山信仰の道。富士山世界文化遺産の「構成資産」の一つの古道を、巡礼者の気分であらためてみましょう。正式な起点は北口本宮富士浅間神社ですが、ハイキングでは7kmほど先の「馬返」を出発するのがおすすめ。駐車場もあり、シーズン中は直行バスも利用できます。

「馬返」で出迎えるのは、俗界と聖地との境界をしるす石鳥居に、富士山の使いとされる二対の猿…。いよいよ、神さまのふところ、といった雰囲気がつらぶり。



▲馬返鳥居

鳥居をくぐると、まるで緑のトンネル。五合目から上の荒涼とした富士山のイメージとは別世界。富士山の優しい森に抱かれ15分ほどで一合目(1,520m)の「鈴原社」に到着。かつて大日如命が祀られていた社跡です。登山道沿いには緑に埋もれて見落とすような史跡も多く点在。苔むした森に目を凝らせば、往時の登山道の賑わいが甦って見えてくるかもしれません。二合目(1,700m)で見られるのは富士山で最古の神社とされる「富士御室浅間神社」。三合目(1,840m)は、当時の人々が昼食をとった「中食堂」「三軒茶屋」と呼ばれた地点。むき出しの富士山の地層なども観察しつつ、気づけばあつという間、四合目(2,010m)の「大黒小屋



▲富士御室浅間神社跡

▲四合五勾 御産石

跡」。さらに15分で四合五勾地点。「御産石浅間神社(井上小屋)」に並ぶ大岩壁「御産石」は神様が依りつく神聖な石。このあたりから視界も開けてきて、足元はゴツゴツとした溶岩に。ほぼ迷うことのないルート上で気をつけたいのが五合目手前。「滝沢林道」に交差したら林道を道なりに少し登り再び登山道に入り、舗装道路にぶつかったら横断し「佐藤小屋」です。小御岳道を通り「富士スバルライン五合目」に到着します。



▲山小屋跡看板

かつては吉田口登山道の沿道には山小屋が点在していました。現在でも注意して見て歩けば小屋の土台となった石垣跡などを発見できます。途中に三軒茶屋や大黒天などの山小屋の歴史を説明した看板もあり、富士講が盛んだった古の頃を思い浮かべ登るのも一興です。

よりみちコラム
富士山遙拝所女人天上
富士山に女人禁制の掟があった江戸時代。女性は吉田口登山道二合目の「御室浅間神社」までしか立ち入りが許されず、そのかわり「富士山遙拝所女人天上」が設けられ今もその跡が残っています。遙拝とは「遠く隔たったところから拝むこと」で、もっと古代には、富士山は誰にとっても遠くから仰ぎ見るだけの韓い山でした。そう思うと老若男女が富士山に登って楽しめる現代は、とてもありがたいのかもかもしれません。



ACCESS ◎中央自動車道河口湖ICから「馬返駐車場」まで車約30分
◎富士急行線富士山駅から「馬返バス停」までバス約30分
※7月10日から8月31日まで富士スバルラインはマイカー規制

奥庭・御庭コース

ここは天地の境
富士山五合目を巡る
あまりに贅沢な雲上の遊歩道

富士スバルライン五合目駐車場の約2.5km手前、富士スバルラインをはさんで山頂側が「御庭」、麓側が「奥庭」。それぞれ散策コースが整備されています。「奥庭駐車場」から遊歩道を10分ほど下った「奥庭荘」周辺は、寄生火山の噴火口にあたる平地になり、溶岩を縫うように石畳みの遊歩道が巡らされています。厳しい風雪に耐え不思議な形に育ったシラビソ、トウヒ、ダケカンパなど亜高山帯の樹種に、自生するシャクナゲなどが織り混ざる風景は、まさに「天狗の遊び場」天狗の大きな下駄が鳥居の下に奉納してあります。

富士山という偉大な自然が作りだした「庭園」を堪能したら、その先の展望台へ。眼前に雄大な富士山頂。眼下に雲の大海原。晴れていれば富士五湖



▲奥庭

五合目から雲海と南アルプス

よりみちコラム
野鳥の水浴び場
奥庭に大正時代からあるという奥庭荘のかたわらに、富士山ではとって貴重な「水場」があります。山荘より大切に維持されてきた、その小さなオアシスにはヤマガラ、ルリビタキなどの高原の野鳥たちが水浴びに訪れます。そのため至近距離で愛らしい姿を観察もできるとあって、奥庭の密かな人気スポットに。野鳥の楽園を侵さないように、そっとカメラを向ける愛好家の姿も見られます。

や南アルプス、ハケ岳連峰などの大パノラマとなります。コースを戻り、富士スバルラインをまたいで「御庭」へは、ゆるやかな登り。コケモモの絨毯を敷きつめた遊歩道を行き、森林帯を抜けると、赤褐色や黒色のスコリアという火山噴出物が一面に広がる富士山らしい光景があらわれます。眼前の五合目から山頂までの富士山の雄姿もここだけの絶景。

さらに「御庭」から「富士スバルライン五合目駐車場」へ巡る道は、かつて「お中道」と呼ばれ、富士山に三度登頂した人だけに許された信仰の道です。登山道にぎわいを横に、天と地の境の世界を心静かに味わえ、登山シーズンが終わった後も、周囲のカラマツが黄葉する10月中旬頃まで楽しめます。



▲御庭

▲コケモモ

▲御庭 森林境界
森林境界とは、気候が厳しくなる高所などで、背の高い樹木が生育できなくなる限界地点のこと。そのため森林限界一帯では、亜高山帯から高山帯に変わる特有の植生を見ることができ。富士山の場合、だいたい5合目から6合目あたりで、特徴的なのが、カラマツの低木。風雪によって形を変えながらも必死で枝を伸ばし根を張るたくましさは感動的です。



ACCESS ◎中央自動車道河口湖ICから「奥庭駐車場」まで車約50分
◎富士急行線富士山駅から「奥庭駐車場」までバス約60分
※7月10日から8月31日まで富士スバルラインはマイカー規制

富士山ハイキングガイド

静岡 Side 岡

山麓から五合目《中腹域》の富士山を歩いて楽しもう！



いつまでも富士山を世界遺産に

